

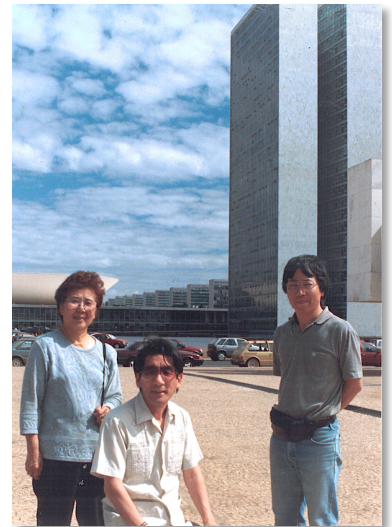


私はメーベル・フランシス宣教師にあってクリスチャンになりました。戦中派で教師をして私には、キリスト教は敵国の宗教という偏見が強くあり、戦争で負けた国の宗教など聞きたくないと思っていたのです。ところが毎朝、私が出かけるときに顔を合わせると微笑みかけてくれる外国人女性にひかれて、誘われるまま焼け跡の一軒家での集会に出席してはじめて聖書にふれました。そこで自分が先生として教えていることは見かけの前だけのことで、本当の神様は、すべてを知ってそのままを受けていれてく

ださる方であることがわかり、神学校へすすみ、山陰の奥地で伝道を始めましたが過労で倒れ、松山の母教会で副牧師として6年間養生しながら過ごし回復したので、「ふたたび開拓伝道」に遣わしてくださいと祈っていたところ、なんと地球の反対側の南米ブラジルの宣教に道が開かれたのです。

あれから35年。ブラジルの首都ブラジリアでの伝道は実を結び、郊外のバンディランテに教会堂も完成し、周辺の日系人移住地を巡回しての集会も祝されています。後継者として、ブラジル人の献身者もあたえられ、日系2世の牧師も与えられ、日本語とポルトガル語のバイリンガルの牧会者として、またの地区の教区長としての責任を負って活躍してくれています。

フランシス宣教師が自叙伝「ひとりが千人を追う」の中で「挫折や失望は宣教師の間にもある」と書いておられますが、私の宣教生活の中でも、健康の問題や失意のどん底に突き落とされるようなところを通されてきました。けれども、神様によりすがっていく時に、神様は本に真実な方であることをいましみじみとおもわされ、「すべての事あい働きて益となる」歩みを心から感謝しているものです。（1966年現地取材）



首都ブラジリアの三権広場にある最高裁判所前にて（左から尾崎道夫・一夫・久子）



『わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てません』（イエスの言葉）

サタデー・トーク

バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送		淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送	
4月1日	マリンバの調べ	4月2日	特集：棕櫚の聖日
4月8日	アメリカ新発見（シカゴ）	4月9日	特集：イースター（復活節）
4月15日	南米ふれあいの旅（ブラジリア 二宮睦子宣教師）	4月16日	リスナーからの『お便り交換の時間』
4月22日	女ばかり南米大陸をゆく（ボリビア沖繩移住地）	4月23日	聖書遊覧バス ヨシュア記
4月29日	マリンバの調べ	4月30日	聖書遊覧バス ヨシュア記

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.jp>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp3形式）

放送時間：日本時間 午前7時半～8時 15.400kHz （再放送） 午後8時～8時半 15.460kHz
（米国アリゾナ州制作／オーストラリア送信）

